

令和4年度
第64回全国公立学校教頭会研究大会
第42回東北地区小中学校教頭会研究大会
第47回岩手県小中学校副校長会研究大会

岩手大会

【第2次案内】

東北ブロックは参集参加
東北以外の都道府県はオンライン参加

ハイブリッド大会

【研究主題】

未来を生きる力を育む
魅力ある学校づくり

【キーワード】

〈自立・協働・創造〉

【サブテーマ】

「郷土に愛情と誇りをもち
未来を生きる力を身に付けた子供の育成を
実現する学校づくりの推進」

【期日】

令和4年7月28日（木）・29日（金）

【会場】

全体会：アイーナいわて県民情報交流センター
分科会：アイーナいわて県民情報交流センター
ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

全国公立学校教頭会 東北地区小中学校教頭会 岩手県小中学校副校長会

写真提供：岩手県観光協会 ナカムラ写真館



ごあいさつ



全国公立学校教頭会
会長
長谷川 右

岩手大会によせて

第64回全国公立学校教頭会研究大会は、東北ブロックの岩手県盛岡市において開催いたします。令和4年度は、第12期全国統一研究主題として設定された「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の最終年度になります。

第12期はコロナ禍にあり、1年次の岡山大会での「紙面発表大会」、2年次の佐賀大会での「オンライン大会」と初めての形式で繋いできた研究成果と課題をもとに取り組んで参りました。さらに本大会においては「ハイブリッド形式（参集とオンライン併用）」という新たな形で開催し、「自立・協働・創造」というキーワードに、「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」をサブテーマとして設定し、研究に取り組んでまいります。

今、新学習指導要領完全実施、小学校35人学級や高学年の教科担任制、GIGAスクール構想、ウィズコロナやアフターコロナでの教育課程など、学校教育が大きく変わろうとしています。その中心となるのが副校長・教頭です。そして、各教頭会・副校長会が政策提言能力を備えた職能団体として力量をつける場が研究大会です。全国の副校長・教頭先生が活発に意見を交わし、大いにその力量を磨いてほしいと思います。全国の会員の皆様の積極的な参加を期待しています。



岩手県大会実行委員会
委員長
高橋 邦明

『郷土に愛情と誇りをもち

未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進』

平成23年3月11日に発災した東日本大震災津波から11年が経過し、昨年12月には、沿岸359kmを結ぶ三陸復興道路が開通いたしました。復興の歩みは、まだ道半ばではありますが、その歩みを着実に進めているところであります。

さて、令和4年度第64回全国公立学校教頭会研究大会は、第42回東北地区小中学校教頭会研究大会と兼ねて、令和4年7月28日、29日の2日間の日程で、岩手県盛岡市において開催いたします。本大会の開催方法は、参集型とオンライン型を融合したハイブリット型開催を予定しております。東北各県の皆様には参集いただき、それ以外の皆様にはオンラインで参加していただくものです。全公教の進めているデジタル化の利点と、顔を突き合わせた従来型の分科会運営の利点をそれぞれ生かしたいと考えました。

岩手大会のサブテーマは、「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」といたしました。全国統一研究主題にある「未来を生きる力」を育む魅力ある学校づくりのために、教頭・副校長がどのように寄与していくべきなのかを明らかにすることを目的と考えて設定したところであります。

本県では、東日本大震災津波の発災以降、「郷土を愛し復興・発展に資する人づくり」に取り組んでいるところです。本大会における研究推進によって、児童生徒に自分が生まれ育った郷土や自分を取り巻く環境を大切にしていこうとする心情を育むと同時に、持続可能な社会の担い手としての資質・能力等を身に付けさせることができると考えております。

また、本研究大会を通して、私たち副校長・教頭が互いの実践を交流し、それぞれの資質を高め合うことで、児童生徒が未来を生きる力を身に付けるために必要な指導・支援ができると考えているところです。

結びに、令和4年度岩手大会が豊かで実り多きものとなりますよう、関係者一同、大会開催に向けて精一杯準備を進めてまいります。全国各地から、たくさんの皆様にご参加いただけることを心より願っております。



開催要項

主催 全国公立学校教頭会 東北地区小中学校教頭会 岩手県小中学校副校長会

後援 文部科学省 全国都道府県教育長協議会 岩手県 盛岡市 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 岩手県市町村教育委員会協議会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国へき地教育研究連盟 岩手県小学校長会 岩手県中学校長会 公益社団法人日本PTA 全国協議会 一般社団法人岩手県PTA 連合会 岩手県公立小中学校事務職員研究協議会 公益社団法人日本教育会 日本教育会岩手県支部 一般財団法人岩手県教育振興基金 公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部 (順不同)

未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり

(全国統一研究主題 第12期3年次)

大会主題 キーワード 〈自立・協働・創造〉
サブテーマ 「郷土に愛情と誇りをもち
未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」

開催期日 令和4年7月28日(木)・29日(金)

開催地 岩手県盛岡市

会場 【全体会場】 アイーナいわて県民情報交流センター
【分科会】 アイーナいわて県民情報交流センター
ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング



※2日目は分科会ごとに昼食時間が異なります。詳しくは要項でお知らせいたします。

郷土文化紹介 盛岡さんさ踊り

【テーマ】「郷土に愛情と誇りをもち
未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」

【コーディネーター】 山森 光陽 氏 (国立教育政策研究所総括研究官)

【シンポジスト】 森本 晋也 氏 (文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官)

伊藤 晃二 氏 (宮古市教育委員会 教育長
宮古地区教育委員会協議会 会長)

松葉 覚 氏 (盛岡市立下橋中学校 校長 岩手県中学校長会 会長)

記念講演 【講師】 映画監督 大友 啓史 氏



研究内容

テーマ

「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を」

研究の基本目標

21世紀も20年余りを経過し、社会情勢は急速な時代の変化の中で知識基盤社会の到来をはじめ、グローバル化の進展や人工知能（AI）の進化など社会の様々な領域で加速度的に日々進展し、将来を予測することは難しくなっています。将来の予測が困難な社会状況の中で、時代の進展を的確にとらえ今後の教育の在り方を見極め、日本国憲法・社会教育法・学習指導要領の理念に基づき、子供たち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが、私たちの使命だと考えています。

このような背景を踏まえ、「社会に開かれた学校づくり」を展開し、未来を切り拓く「生きる力」を高め、豊かな人間性や創造性、国際社会の一員としての自覚をもち、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するために私たちは貢献しなければなりません。その使命を果たすために私たちは、副校長・教頭の職務内容の研究を通して力量を高め、国民の期待に応える魅力ある学校づくりに努める必要があります。

以上のことから、次のことを研究の基本目標とします。

●教育理念に基づく学校教育の実現

特色ある学校づくり、社会に開かれた学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現を目指す。

●副校長・教頭としての力量向上

広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する見識を深める。

●学校の社会的役割の推進

国民の期待に応える魅力ある豊かな学校づくりを推進する。

分科会	課題	各課題の内容		
第1A	教育課程に関する課題	○教育課程の編成・実施・評価 ○学校経営・学校運営 ○教育理念 ○教育目標の設定 ○信頼される学校づくり ○生きる力 ○幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携 ○コミュニティ・スクール ○土曜授業 ○地域との連携	全国	静岡（中）
第1B			東北	宮城（小）
			全国	奈良（小）
			岩手	遠野（中）
第2	子供の発達に関する課題	○豊かな人間性の育成 ○健康・体力の増進 ○確かな学力 ○課題を発見し解決する力 ○子供の発達を支える教育課題	全国	山口（中）
			東北	秋田（中）
			岩手	和賀（小）
第3	教育環境整備に関する課題	○安全・安心 ○教育施設 ○家庭・地域との連携 ○学校規模適正化 ○文書事務・経理事務 ○教育の情報化	全国	愛媛（小）
			東北	山形（小）
			岩手	久慈（中）
第4	組織・運営に関する課題	○学校運営全般 ○人材育成 ○組織力の向上 ○危機管理や情報管理 ○地域連携 ○異校種連携	全国	熊本（中）
			東北	福島（中）
			岩手	雫石（小）
第5A	教職員の専門性に関する課題	○教育の専門家としての意識高揚 ○指導力の育成 ○研修 ○サービス・コンプライアンス意識 ○小中一貫教育 ○協働体制の構築 ○学校運営参画意識の向上	全国	北海道（小）
第5B			東北	青森（中）
			全国	埼玉（中）
			岩手	一関（小）
第6	副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題	○「全国公立学校教頭会の調査」について結果及び考察	全公教 総務・調査部	
特別Ⅰ	時宜に応じた課題	○メディアリテラシーに関する講演 ○ワークショップ、グループ協議 GIGA導入後の課題や取組等の共有	全公教 研究部	
特別Ⅱ	特別課題	開催地の創意を生かした課題（講演に基づいたグループ協議） ○地域に根差した災害からの復興や企業努力について ○人材育成と組織マネジメントの在り方 等	岩手県実行委員会 研究部	



身に付けた 子供の育成を実現する学校づくりの推進

研究の基本方針

1 学校教育の課題の解決に努める

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目標とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

2 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する

学校経営において副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を実践的に追及するとともに職務の充実を図る。

3 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

研究活動と政策提言活動（要請活動）は全国公立教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくように努める。

提言テーマ	会場
社会に開かれた教育課程の策定に関わる教頭の役割 ー静岡型小中一貫教育開始に向けた取組ー	ニューウイング 星雲
地域とともに歩む学校づくりを目指して ー仙台版コミュニティ・スクールの推進とコロナ禍における教育課程の工夫ー	
世界遺産に囲まれる学校としての取組 ー地域に誇りを持つ児童であふれる学校づくりを目指してー	ニューウイング メトロホール東
中学校区の小中連携、小小連携の取組における副校長の役割 ー外国語教育の推進をとおしてー	
豊かな人間性を育む小中9年間の取組と教頭の役割 ー学校・地域連携カリキュラムの作成を通してー	アイーナ 803
小中の発達を生かした地域社会との連携・協働 ー地域の教育力を生かした豊かな心の育成のための教頭の関わりー	
子供たちの豊かな人間性を育むための地域連携の在り方	
GIGAスクール構想の実現と教頭の関わり ーICT環境の整備と活用の在り方ー	
学校・地域の連携と協働を進める教頭としての役割 ー地域全体で子供の学びや成長を支えるためにー	ニューウイング メトロホール西
地域社会と副校長の関わり ー組織・運営の活性化を図るためにー	
「何のため」を問いながら進める持続可能な働き方の実現と教頭の役割 ー時間対効果とチームワーク向上の取組を通してー	
「地域とともにある学校」を実現するための地域との共働体制の構築 ー地域が抱える課題を共有し、解決に向けた組織・運営の工夫ー	アイーナ 812
教員の多忙化を解消する副校長の役割 ー業務の負担軽減・教職員の健康確保を柱とした組織・運営をとおしてー	
檜山のよさを生かし、未来を切り拓く人を育む、活力ある学校づくりの推進 ー教職員の指導力と学校運営参画意識の向上を推進する教頭の関与の在り方ー	アイーナ 804 (A)
教職員の資質向上と職務意識の高揚 ーミドルリーダーの育成を通してチームを高める協働体制の構築と教頭の役割ー	
支援・育成体制の充実を図り、魅力ある教師の育成 ー「春日部メソッド「教師の学びの支援」を通してー	アイーナ 804 (B)
教職員の資質・能力の向上を目指した副校長の役割はどうか ー中・小規模校における実践を通してー	
「副校長・教頭の職務内容及び職務機能に迫る課題」 東京大学大学院教授 勝野正章 氏	ニューウイング メトロホール南
「一人一台情報端末時代に求められる情報モラルとメディアリテラシー」 ～課題の共有と学校教育への位置づけについて～ 日本大学文理学部教育学科教授 中橋 雄 氏	ニューウイング ギャラクシー
講演1 被災地の復興は発酵で街づくり 講師 ㈱八木澤商店 代表取締役 河野通洋 氏	アイーナ
講演2 価格や量とは別次元で未来を創る ～度重なる苦境を乗り越えて 講師 ㈱岩泉HD 代表取締役社長 山下欽也 氏	小田島紹☆ほ～る



記念講演 講師・郷土文化紹介・シンポジウム

記念講演【7月28日（木）11:00～】

大友 啓史 氏 映画監督

【略歴】

1966年 岩手県盛岡市出身 慶応義塾大学法学部法律学科卒業

1997年～1999年 L.A.に留学、ハリウッドにて脚本や映像演出に関わることを学ぶ

帰国後、連続テレビ小説『ちゅらさん』シリーズ、『ハゲタカ』『白洲次郎』、大河ドラマ『龍馬伝』等を演出

2009年 映画『ハゲタカ』で映画監督デビュー

2011年 NHK退局、株式会社大友啓史事務所を設立

『るろうに剣心』シリーズ5部作（2012～2021）、『3月のライオン』2部作（2017）、『影裏』（2020）



郷土文化紹介【7月28日（木）13:50～】

郷土文化紹介 盛岡さんさ踊り

“盛岡さんさ踊り”は、毎年8月1日から4日間、盛岡市内の路上や各所を会場に行われる夏祭りです。一つの祭りとして太鼓が参加する数では日本一を誇り、「和太鼓演奏世界一」としてギネスブックにも認定されています。“さんさ踊り”の起源は藩政時代に遡ります。その昔、南部盛岡城下に羅刹（らせつ）という鬼が現れ悪さをし、困り果てた里人たちが三ツ石神社の神様に悪鬼の退治を祈願しました。その願いを聞き入れた神様は悪鬼をとらえ、鬼の退散を喜んだ里人が三ツ石神社のまわりを「さんささんさ」と踊ったのが“さんさ踊り”の始まりといわれています。今では、独自の伝統を保ちながらお盆やお祭りに地元で踊られている“さんさ踊り”がたくさんあり、まとめて“伝統さんさ”と呼んでいます。“盛岡さんさ踊り”では、個性をもつ“伝統さんさ”の公演があり、見応えがあります。



シンポジウム【7月28日（木）14:10～】

●コーディネーター

山森 光陽 氏

国立教育政策研究所総括研究官



【略歴】

専門は教育心理学

小学校から中学校に至る学力パネルデータを用いた大規模調査研究と、生体情報を用いた実験研究の両面から、クラスサイズが児童生徒に与える影響を検討している

慶應義塾大学文学部卒業、早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了、博士課程中退。

博士（教育学）。国立教育政策研究所研究員、主任研究官を経て、現職。
慶應義塾大学、早稲田大学大学院、津田塾大学大学院講師。

●シンポジスト

森本 晋也 氏

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室 安全教育調査官



【略歴】

1967年 香川県生まれ、現在は東京都在住
平成6年度から平成21年度まで岩手県公立学校教員として、千厩町、釜石市の中学校に勤務
平成22年度から平成27年度まで一関市教育委員会、大槌町教育委員会、岩手県教育会に指導主事として勤務
平成28年度から平成30年度まで岩手大学教職大学院に准教授として勤務
平成31年4月から現職

●シンポジスト

伊藤 晃二 氏

宮古市教育委員会 教育長
宮古地区教育委員会協議会 会長



【略歴】

1952年山田町生まれ 現在は宮古市在住

昭和50年4月～平成3年3月

岩手県公立学校教諭として中学校に勤務

平成3年4月～平成15年3月、平成17年4月～平成20年3月 宮古教育事務所（指導主事、主任管理主事）、宮古市教育委員会（学校教育課長）、水沢、奥州教育事務所（所長）に勤務

平成15年4月～平成17年3月、平成20年4月～平成25年3月 公立学校校長として、釜石市（小佐野中）、宮古市（宮古小、第一中）の小中学校に勤務
平成25年8月30日より現職

●シンポジスト

松葉 覚 氏

盛岡市立下橋中学校 校長
岩手県中学校長会 会長



【略歴】

1961年 盛岡市生まれ

昭和62年度～平成16年度 盛岡市立・山田町立中学校 教諭
平成17年度～平成20年度 岩手県立総合教育センター 研修主事

平成21年度～平成23年度 宮古教育事務所 指導主事・主任指導主事

平成24年度～平成26年度 岩手県教育委員会 主任・首席指導主事兼復興教育特命課長

平成27年度～平成29年度 八幡平市立西根第一中学校 校長

平成30年度～令和元年度 宮古教育事務所 所長
令和2年度より現職

会場案内

全体会会場・分科会会場【第1日・第2日】

◆アイーナいわて県民情報交流センター

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

TEL 019-606-1717 (総合案内/管理室)

FAX 019-606-1716



JR・IGR盛岡駅西口より徒歩4分



分科会会場【第2日】

◆ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2番27号

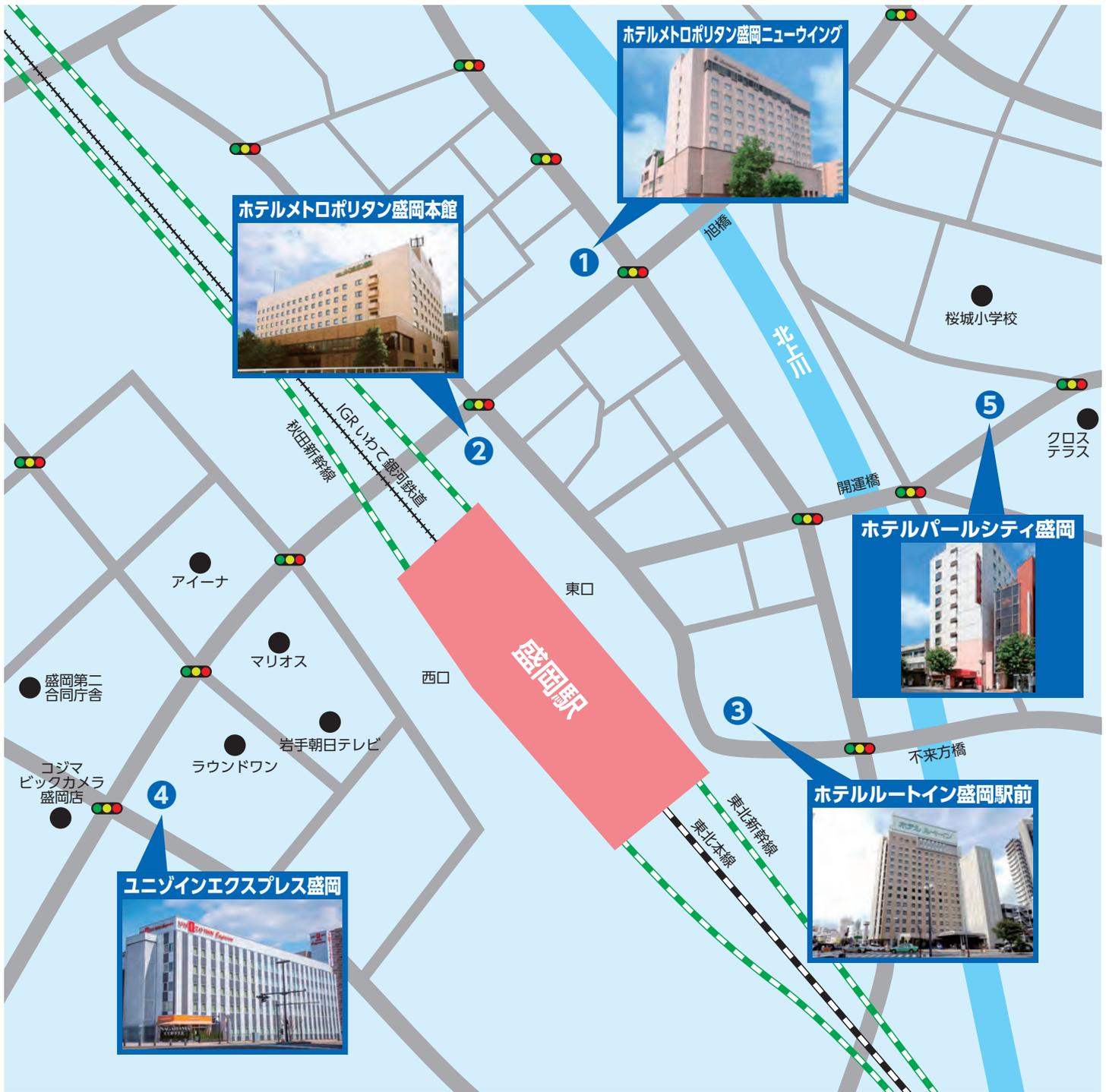
TEL 019-625-1211 (代表)



JR・IGR盛岡駅東口より徒歩3分



全体会場 分科会会場 宿泊施設案内



■大会問い合わせ先

全国公立学校教頭会研究大会 岩手大会 実行委員会

実行委員長 高橋 邦明

〒020-0876 岩手県盛岡市馬場町1-1 大会事務局 (盛岡市立下橋中学校)

TEL:019-651-2858 FAX:019-651-2866

E-mail:iwa2858@hyper.ocn.ne.jp



岩手県小中学校副校長会

●第2次案内掲載先…岩手県小中学校副校長会ホームページ <https://iwafuku2858.sakura.ne.jp>

■大会参加・宿泊の問い合わせ先

近畿日本ツーリスト株式会社 盛岡支店

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮7-1-1 イオンモール盛岡南2階

TEL:019-907-8505 FAX:019-631-1735 E-mail:morioka@or.knt-th.co.jp

担当:瀧音 瑞希 (たきおと みずき)